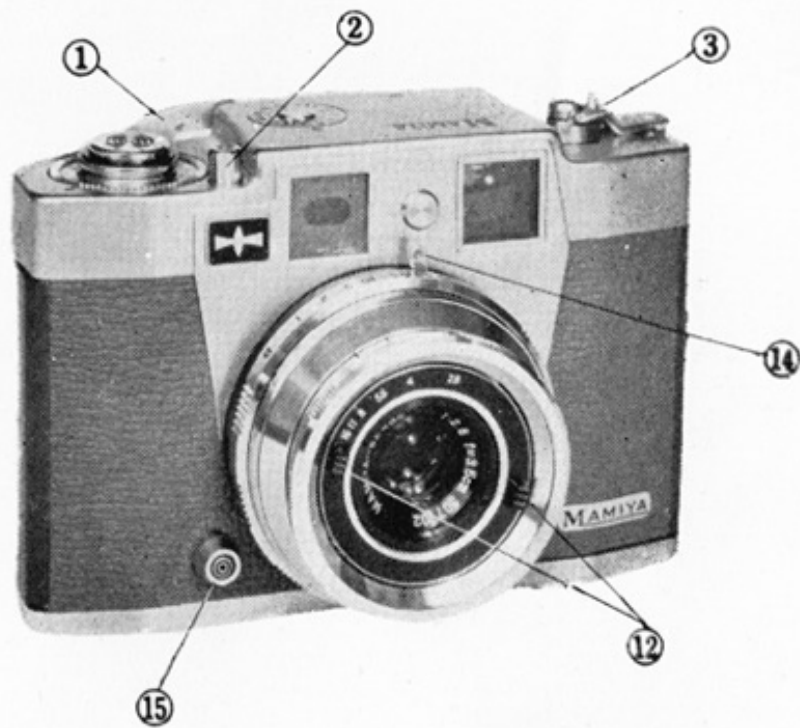


マミヤ スナップ

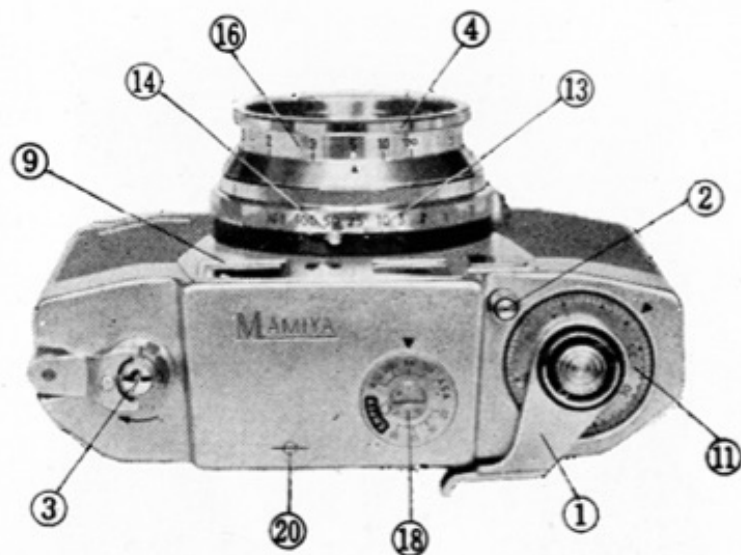


の使い方

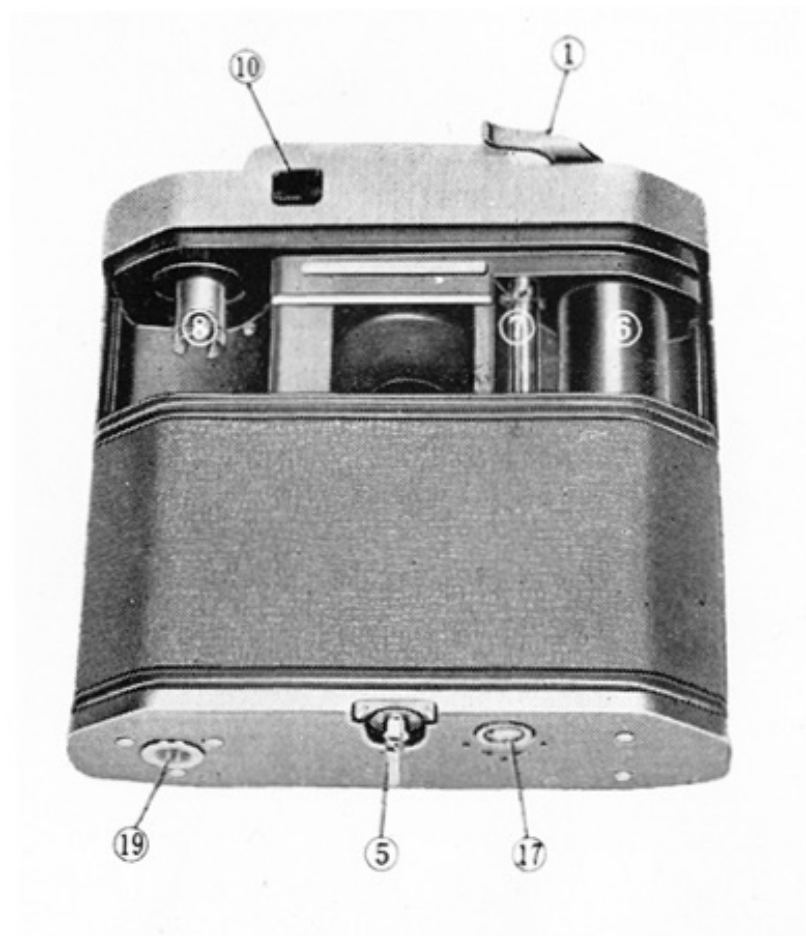
要 部 の 名 称



- | | |
|--------------|------------|
| 1. 卷上げレバー | 5. 裏ぶた止め金具 |
| 2. シャッター・ボタン | 6. 巻取スプール |
| 3. 巻もどしクランク | 7. スプロケット |
| 4. 焦点調節リング | 8. フィルム倉 |



- | | |
|---------------|----------------|
| 9. ファインダ窓 | 13. 露出時間目もり |
| 10. ファインダのぞき窓 | 14. セルフタイマ・レバー |
| 11. こま数表示盤 | 15. シンクロ・ターミナル |
| 12. 絞り目もりリング | 16. 距離目もり |



17. スプロケット解除ボタン

18. フィルム感光度表示盤

19. 付属品取付けねじ穴

20. 焦点面指示マーク

ここは、ぜひ御一読ください

巻上げレバー（1）を巻上げたり、シャッタをテストしてみるのは、各部の操作法をよくのみこんでからにいたしましょう。

このカメラの画面サイズは、スケッチ判（24×24ミリ）です。

フィルムは35ミリ・フィルムの20枚どりを御使用下さい。

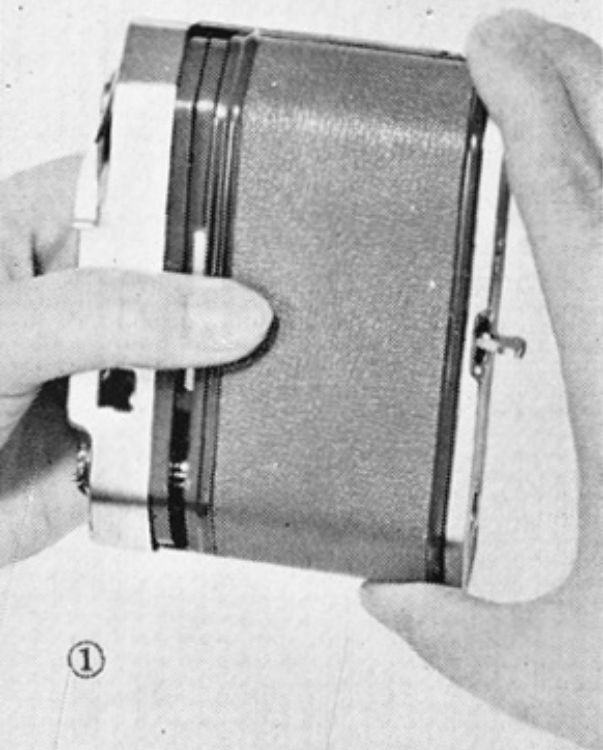
30枚の写真がとれます。

セルフ・コッキング

巻上げレバー（1）に右手の親指をかけて、反時計方向（カメラの上面から見て）に、止まるまで（約180度）確実に動かしますと、フィルムが一コマ進むと同時にシャッタが掛かります。ここで指先を放せば、レバーはもとの位置に自動的にもどります。

連動距離計

焦点調節リング（4）を回しますと、レンズ系が前後に移動し、距離計と正確に連動します。連動のようすは、ファインダのぞき窓（10）から見えるファインダ（9）視野内の中央、小さな



明るい円形部分の二重像の重なりぐあいによつてわかります。二重像が合致したとき、焦点が合い、鮮鋭な写真がとれます。

裏ぶたのあけかた

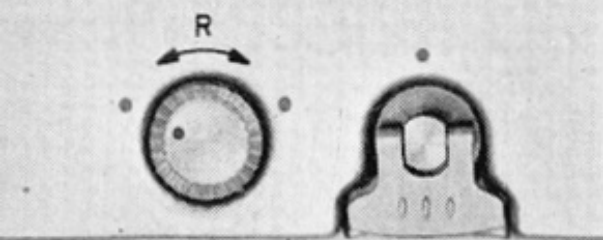
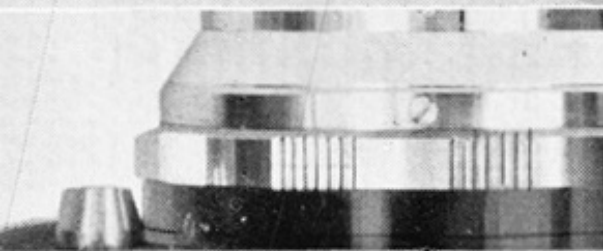
1. 裏ぶた止め金具（5）を指先で起して90度回転し、底ぶたに刻まれている赤丸印へ合わせます。

2. 次に写真のようにカメラを持つて裏ぶたを引き出しますと、裏ぶたと底ぶたとがいつしよに、はずれます。

（第1図）

フィルムの巻もどし

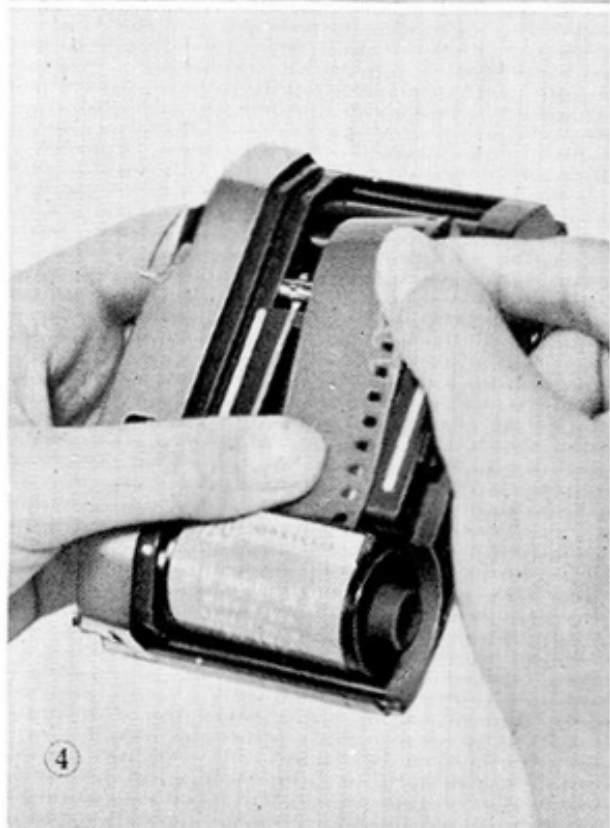
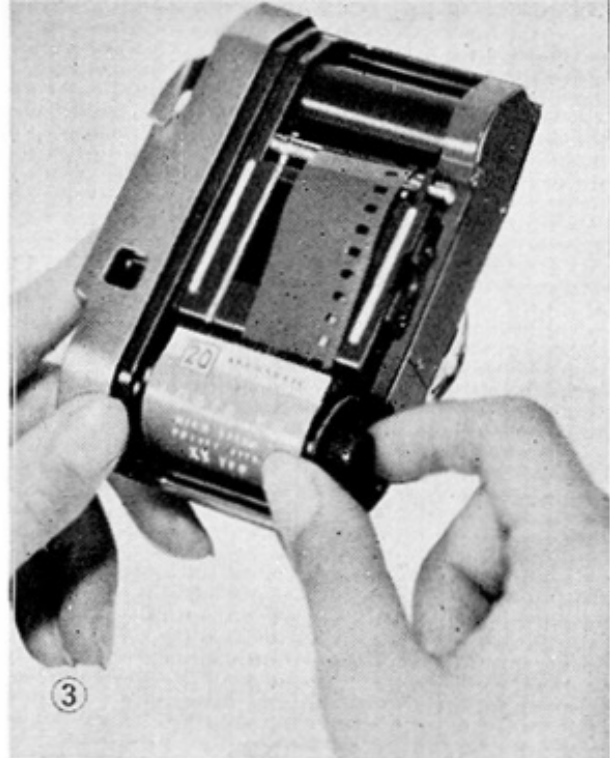
所定枚数の撮影が終了したら、カメラの底面についている、スプロケット解

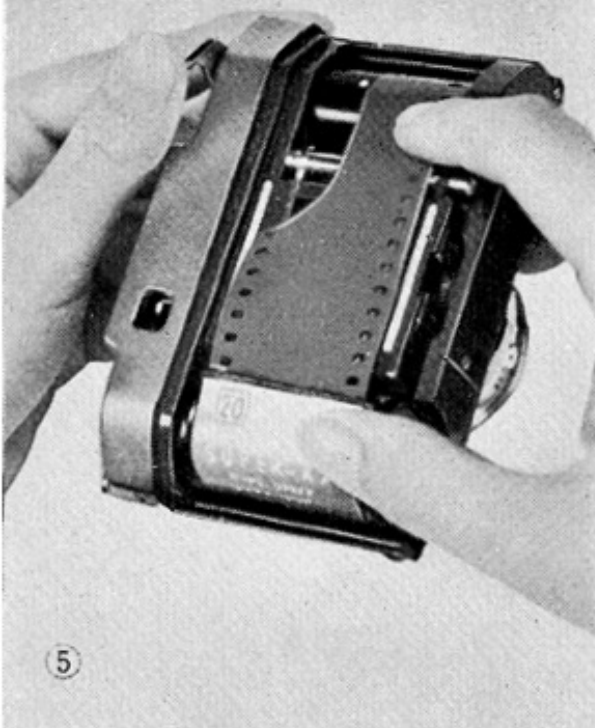


除ボタン (17) の赤丸印を、現在示している反対側の赤丸印の方に、指先で約120度回して合わせますと、フィルムを巻取スプール側に送る sprocket が逆方向に回転するようになりますから、巻もどしクランク (3) を起して矢印の方向に巻きますと、パトローネに撮影済みのフィルムが巻き込まれます。

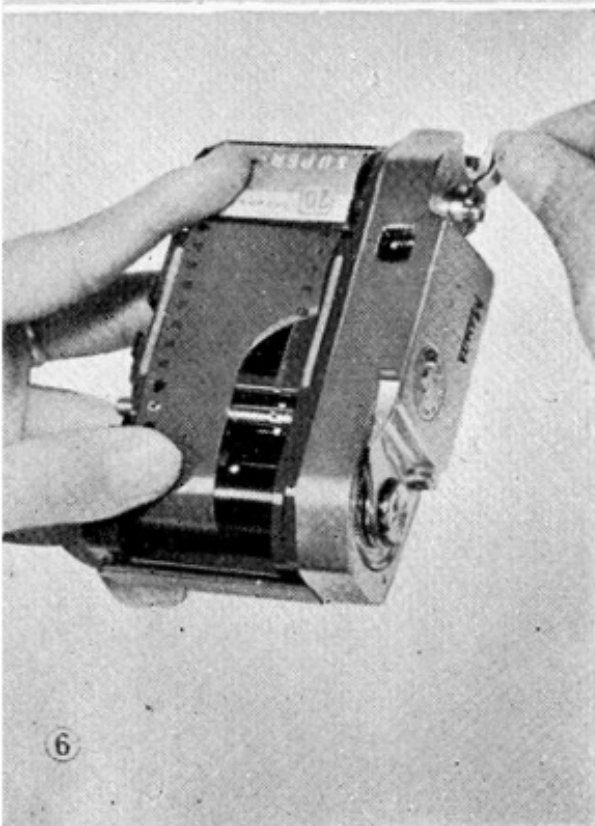
したがって撮影中に、この sprocket 解除ボタンを動かしたり、途中の位置に置いたり、巻もどしクランク (3) に手をふれてはいけません。

なお、巻上げレバーを巻くと、ゆるんだ sprocket が自動的にもとにもどります。したがって次の撮影のときは、ス





⑤



⑥

プロケット解除ボタン (17) は、フィルムを巻もどしたときのままにしておけばよいのです。

フィルムの入れ方

1. フィルムを出し入れする際は、必ず直射日光をさけて日蔭で行います。

2. 裏ぶたをはずしましたら、スプロケット解除ボタンの赤丸印がどちらかの赤丸印に合っているかどうかを確かめます。(第2図)

3. パトローネの向きに気をつけながら、フィルムをフィルム倉(8)に入れます。そしてフィルムを10センチぐらい引き出しましたら、その先端を5ミリほど、内側(感光膜のある方)に折りまげ

ます。(第3図)

4. その折りまがりを、巻取スプール(6)の黄色印がある方のみぞにさしこみ、巻上げレバー(1)を小刻みに巻上げながらフィルムを巻取スプールに



しつかりとまきつけます。この際フィルムの穴がスプロケットの歯に正しくかみあうように注意いたします。(第4,5図)

5. そしてフィルムがゆるまないようにおさえながら、パトローネのすわりを直し、巻もどしクランク(3)を矢印の方向にまいて、パトローネの中のフィルムのたるみをすっかりとりのぞきます。(第6図)

6. たるみをとりのぞきましたら、スプールに指先をあてて、少しばかりフィルムをまいてみます。スプロケットの歯がフィルムの穴に正しくかみあい、巻もどしクランク(3)の中央の軸が

反時計方向に回転しながら、フィルムがするすると、パトローネから出てくるようでしたら、直ちに裏ぶたをはめて、止め金具(5)をもとにもどします。この際、フィルムの穴が両側ともスプロケットの歯にかみあうほど、フィルムを巻きこみますと、所定枚数とれないことがあります。

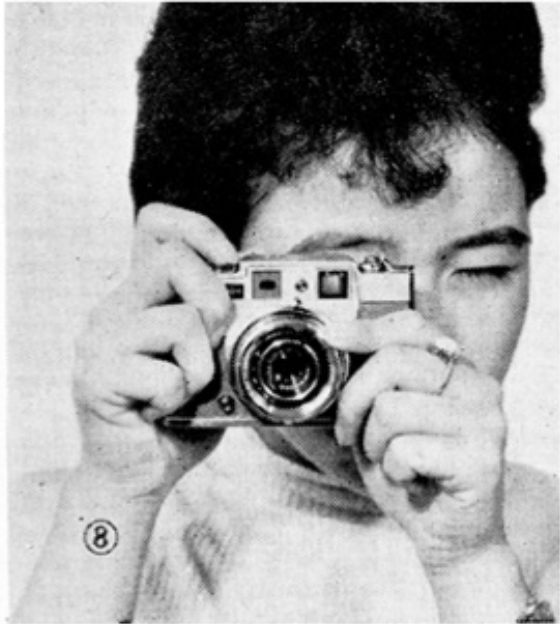
裏ぶたをはめる際、ボデーみぞ(左右)上部の黄色マークのところに合わせて、差し込みますと楽に入ります。

6. それから、コマ数表示盤(11)の凸凹部に指先をあてて、表示盤を矢印の方向に回し、1の3つ前の赤字Sを外側の矢印に合わせます。(第7図)

7. レンズをおおい、巻上げレバー(1)を巻上げて、コマ数表示盤が1を指すまで、から写しをつづけますと、最初の1枚目を撮影する準備ができ上がります。

8. 巻上げ中フィルムの送りが正しく行われていれば、巻もどしクランク(3)の軸が、たえず反時計方向に回転いたしますか

ら、クランク軸が回らないときには、直ちに撮影を中止してフィルムを巻もどし、裏ぶたをはずしてフィルムを入れ直します。したがって撮影中は、巻もどしクランクを不用意にいじらないように注意してください。



9. なお入れたフィルムの感光度を、フィルム感光度表示盤(18)に移しておきますと便利です。

カメラの構え方

持ち方は、いかようでもよろしく、要は安定できればよいのですが、指先がシャッタのダイヤルにふれないように注意が肝要です。

両手でカメラを持ち、左手の人さし指の先で焦点調節リング(4)を動かし、右手の親指の先を、巻上げレバー(1)の頭にあて、人さし指を、巻上げレバーの回転軸にのせますと、ほんの

指先だけで軽くシャッター・ボタンを押すことができます。(第8図)

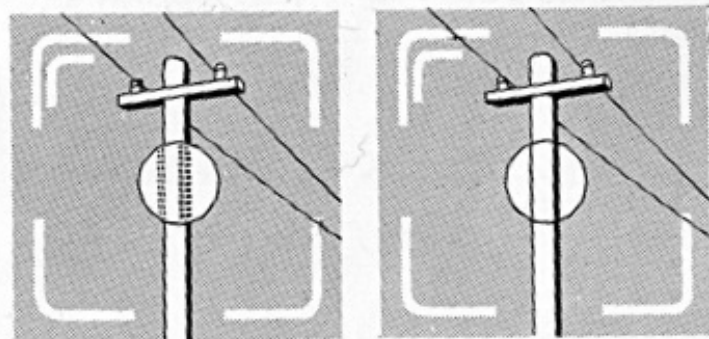
絞り目もりの合わせ方

絞り目もりリングは、焦点調節リング(4)の内部にあります。絞りを変えるときには、焦点調節リング(4)をおさえ、親指と人さし指を絞り目もりリング(12)の凸起にあててリングを動かしますと、所定の位置でクリックによつて止まります。

なお、絞りを合わせるときには、焦点を合わせる前に行つたほうが撮影に便利です。

焦点の合わせ方

二重像を合致させて、焦点を合わせるには、おもな被写体の像



が、中央円形部分の中心に見えるようにいたします。この注意は特に近距離の被写体をねらうときに大切です。

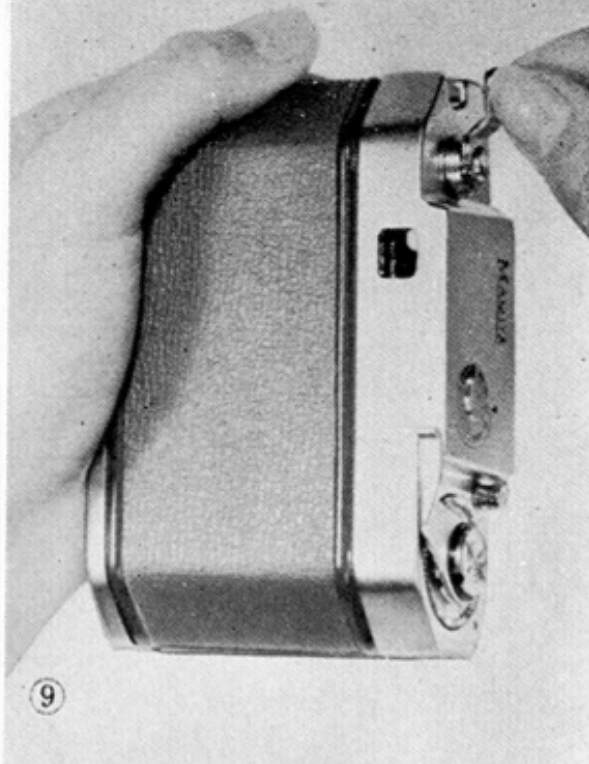
被写体深度表

マミヤ・セコール F 2.8 f = 3.5 cm (錯乱円 3.39 / 1,000 センチ)

距離 (m) 絞り	∞	10	5	3	2	1.5	1.2	1	0.8	0.6
2.8	12.92 ∞	5.66 43.45	3.63 8.08	2.45 3.87	1.74 2.35	1.35 1.68	1.11 1.31	0.93 1.08	0.76 0.85	0.58 0.62
4	9.05 ∞	4.78 ∞	3.24 10.98	2.27 4.43	1.65 2.54	1.30 1.78	1.07 1.37	0.91 1.11	0.74 0.87	0.57 0.64
5.6	6.48 ∞	3.95 ∞	2.85 21.17	2.07 5.47	1.55 2.84	1.23 1.92	1.03 1.45	0.88 1.16	0.72 0.90	0.56 0.65
8	4.54 ∞	3.15 ∞	2.41 ∞	1.83 8.50	1.41 3.47	1.15 2.18	0.97 1.59	0.83 1.25	0.69 0.95	0.54 0.68
11	3.31 ∞	2.51 ∞	2.02 ∞	1.60 27.78	1.27 4.81	1.05 2.63	0.90 1.81	0.79 1.38	0.66 1.02	0.52 0.71
16	2.29 ∞	1.88 ∞	1.59 ∞	1.32 ∞	1.09 13.65	0.93 4.04	0.81 2.37	0.72 1.68	0.61 1.17	0.49 0.77

そして焦点を合わせる物体は、なるべく垂直のもの、たとえば電柱や、窓の縦線といったように垂直線状のものを選んだ方が正確な結果が得られます。人物の場合には、鼻やほおの線あるいは、めがねの縁などに合わせます。

本機は、距離計連動ですが、絞り目もりを f 8 に合わせてから焦点調節リングの 5 メートル位置のクリック・ストップを利用いたしますと、2.41 メートル以上のスナップ撮影に、いちいち焦点



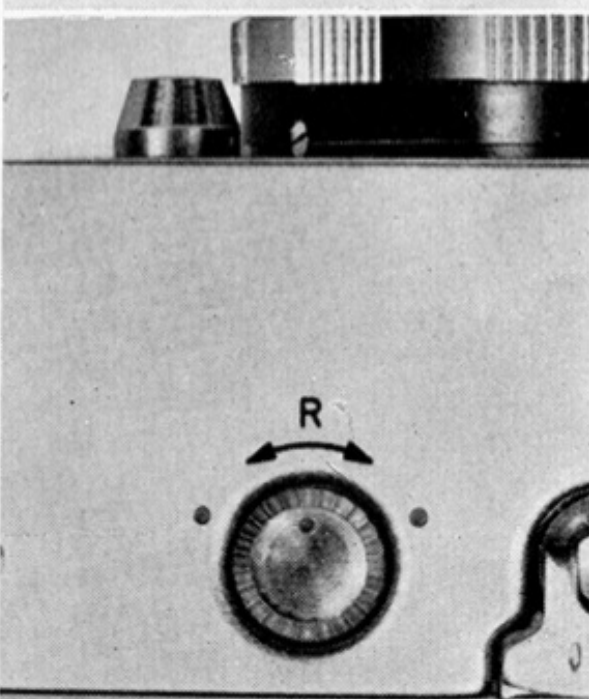
を合わせなくても申し分のないピントの
写真が得られます。

なお、ファインダ視野内に見える輝か
しい輪郭線は、フィルム面に写る被写体
の範囲を示すもので、最近距離ではパラ
ラックスの作用で、写る範囲が移動し、
輪郭の左上が内側の「印のところまで移
ります。

フィルムの取りはずし

規定の枚数だけ撮影をすませました
ら、撮影を中止してフィルムを巻もどし
てください。

1. スプロケット解除ボタン (17) を
現在合っている反対側の赤丸印に合わせ
てから、巻もどしクランク (3) を矢印



の方向に回して、撮影済みのフィルムをパトローネに、巻もどします。(第9図)

2. フィルムの巻もどしが終りになりますと 手ごたえでわかりますから、そつくりパトローネに、巻き込んでしまわないように注意して、裏ぶたをはずし、カメラから取り出します。

注意 1. 規定枚数以上、撮影を進めますと(場合により規定枚数以内でも)巻上げレバーが(1)巻上げの途中で止まつて巻上げられなくなります。この場合にかぎり、むりに巻かずに、スプロケット解除ボタンを赤丸印と赤丸印との中間に合わせてから、巻もどしてください。(第10図)

注意 2. フィルムの巻もどしが終り、フィルムを取り出しましたら、必ずスプロケット解除ボタンの赤丸印を外側のどちらかの赤丸印に合わせて直してください。

注意 3. 途中で動かなくなつたレバー(1)を、むりに巻上げますと、フィルムの末端がパトローネの軸からぬけて、巻もどし

ができなくなつたりいたします。

注意 4. フィルムを取り出しましたら、感光度表示盤(18)をEMPTYの記号にいたします。

シャッタの扱い方

1. フィルムを巻上げたあとで、露出時間をかえようとする時、多少ダイヤルが重くなりますが、少しもさしつかえありません。
2. 露出時間ダイヤルを、B(バルブ)と1秒の途中で合わせますと、シャッタによくない影響を与えますから、必ずダイヤルをクリックのところで、お合わせください。

フラッシュ撮影

本機のシンクロ接点は、X接点でストロボ・ライトを使用して撮影する場合及びFクラス(タイム・ラグ10ミリ・秒以内)の閃光球で、1/50秒及びそれ以上の露出時間で、シンクロ撮影をする際に用います。

なお、Mクラス球を使用してもかまいませんが、この場合は

1/25 秒までしか同調いたしません。

カメラに発光器を取付けるには、付属品の発光器取付け金具をカメラの付属品取付けねじ穴（19）と速写ケース取付けねじとでカメラの底にしつかりと締め付けてから、その金具の端の付属品取付け座に差し込みます。

なお速写ケース取付けねじ（トライポード・アダプター）には、ねじ穴がありますが、これは三脚を取付けるためのもので、カメラを三脚に取付けるときは、いつたん取付けねじをカメラにねじ込んでからにいたします。

付 属 品

レンズ・フード（ケース付） 種々の有害光線がレンズに直射するのを防ぎ、明快な写真を仕上げるのに役立ちますから、フィルタとともに、まず第一におそろえになる必要がございます。

各種フィルタ（マツダ製品） 二種類の黄色のフィルタのほか、だいたい色、黄緑色などのフィルタ、さらにカラー撮影用の

サン・ライトなども用意してあります。ねじ込み式（19.5ミリ）。

黄色フィルタ：フィルムによく感じる紫外線から青色光までを吸収するので、青空は、やや黒くなり白雲を明瞭に浮き出させることができます。

だいたい色フィルタ：黄色のフィルタと同様に、遠景撮影に多く使用されますが、青色光を抑えすぎるので、青空を黒く落しすぎる特質があります。

黄緑色フィルタ：紫外線から青色光の一部と、赤外から、だいたい色までを吸収し、緑色や黄色を明るく撮影することができますので、野外撮影のほか、人物撮影にも使用されます。

サン・ライト：カラー撮影の際に、カラー・バランスを保つのに使用するほか、UVフィルタの代用としても使用されます。

顕微鏡写真用アダプター このカメラには、特殊設計が施してありますから、一般市販の顕微鏡にアダプターを併用いたしますと、簡単に顕微鏡写真を写すことができます。

マミヤ B-C 発光器 撮影に先立ち、閃光球の良否、電池、キャパシター、同調回路の検査ができる高性能ガンです。ペン・ライト電池を使用する普通ガンとしても活用できます。

発光器取付け金具 発光器を併用する際に必要なものです。

オート・アップ 人物のクローズ・アップ、静物の草花や果実の接写、文献の複写など、0.6メートルから0.33メートル以内の近接撮影を行う際に、ぜひ必要なものです。

のちのちのために

カメラには必ず愛用者カードが添付してあり、これをお寄せいただきますと、御芳名を御愛用者名簿に登録のうえ、種々御便宜をお計りいたすしくみになつておりますから、ぜひ一筆お書込みのうえ、切手をはらずにそのままお出してください。

なお御使用上疑問の点があります場合や、万一カメラに故障が起りましたときは、御遠慮なく当社サービス部まで、お申し越してください。



マミヤ光機株式会社

東京都文京区本郷1の7